

白板地区の秋を彩る文化祭

11月2・3日 蟻西町会

文化祭を盛り上げてくれた
バイオリン演奏



11月2日 日向町会

小さな町の文化祭
今年は防災訓練の
炊き出しもいっしょに!!



10月26日 放光寺町会

子ども太鼓が
華を添えてくれました



常念通り

北部公民館
館報編集委員会
☎ (35) 7740

11月7・8日 城西町会

いい文化祭になったと
関係者みなさんニコニコ



錦秋を愛でて、白板地区の4つの町会が文化祭を楽しみました。個性あるその様子を紹介します。

大屋根の鉄筋も打たれて、公民館の外観がうかがえる状況となり、来年3月末の竣工を目指してピッチが上がってきました。

白板地区新公民館建設だより⑤



と話してくれました。

食改さん講座
ヘルシーです
凍み豆腐を食べましょう



長野県特産の凍み豆腐を使った料理講習会が10月10日に開かれました。教えて下さったのは白板地区食改の皆さんです。凍み豆腐と言えば煮物や味噌汁の具に入れる位の使い方しか知らなかった多くの受講者は、凍み豆腐のチラシ寿司やかき揚げ等に驚きました。手際よく四品の料理を作ることができ、全員でおいしく頂きました。ご近所同志で初めて参加された松森方江さんと松林美恵子さんは、ヘルシーで安価な凍み豆腐料理を教えてもらったり、栄養の知識を勉強できたりも楽しかったので、これからも料理講習会に参加したいと話してくれました。

「老いて増々」 私達の日常生活の中でも確実に寿命がのびていると実感することが多くなりました。医療が発達し、あらゆる検査が可能になった事に他ならないと思いますが、それにも増して年老いても働く意欲、考える意欲に溢れ、生きる張り合いや気力のある方々がとても増えてきていることも一因になっていると思います。

年を取るに伴い身体が老いていくのは当然だと思えますが、心身共に健康で老いていくのは大変なことだと思います。身体を使って常に何かに没頭できることを考え実行していくことが大切なことなのかと思っています。

現に九三歳で透析を受けながらもクワを振るって農作業を楽しんでいる方がおり、大変感心しております。作る野菜のことを考え夢中になっておられる姿を見ていると少しでもかきしゃくたる方々に近づきたいと願う日々です。あれこれ創意工夫しながら、考えを巡らせながら楽しむ生活を送れたら幸せです。限られた人生、少しでも輝ける時間が持てたらと思う頃です。

K A

常念通り

◆ 白板地区の団結力が光る ◆ 第 57 回 松本市民体育大会

10 月 12 日 (日) 秋晴れの中、松本市総合体育館に市内 35 地区の選手・役員が勢揃い第 57 回の松本市民体育大会の開会式が、第一高等学校のファンファーレに乗せて催行されました。我が白板地区も白板カラーのオレンジと白のキャップを全員がかぶり、50 人以上が参加し団結力を誇りました。結果は 5 種目の競技にすべてエントリーし (出来ない地区もある)、選手たちの活躍で旧市内ではトップの昨年 19 位から一躍 12 位へ順位を上げました。



新調のユニホームが似合う
白板地区のホープたち



整列する
白板地区応援団



市長杯争奪競技大会
軟式野球の部 白板地区
第 31 回
準優勝に輝く!!



2 年目のチャレンジ
猛練習の成果は?



決勝トーナメント 3 位
がんばった選手たち

見学記
満蒙開拓平和記念館

白板地区人権擁護委員会は、10 月 20 日下伊那郡阿智村に昨年オープンした満蒙開拓記念館を見学しました。拓け満蒙行け満州”のかけ声に送られ昭和の初期 27 万人の農業移民が満州へ渡りました。その中に長野県関係者が多くいました。折りからの不景気の中で農地をもたない農家の二男三男は、20 町歩の地主になれるという話に夢を抱きました。しかし昭和 20 年 8 月 9 日突然のソ連軍侵攻で、満州は戦場になりました。飢えと寒さで多くの人が亡くなり、飢えて死なせるよりはと幼い児を中国人に託した母親もいました。その子供達が成長し残留孤児として帰国したのは最近のことです。残留孤児の引き揚げに尽力した山本 茲昭さんのお寺(長岳寺)は、記念館の隣りにあります。

日中双方に犠牲を出した満蒙開拓の歴史を風化させないように後世に伝えていきたいものです。若い方で満州とはどこですかと言う方もいます。満州とは中国東北地方に存在した 13 年間の幻の国です。

Y・N

10月31日 中山道



鳥居峠越えの急坂を…“元気で行くぞ!! オ～”



快晴の鏡池でホット一息

10月28日 戸隠



杉木立のパワーをもらって足取りも軽く

みんなで歩こう
北部公民館講座